

カラフトイバラ (ヤマハマナス)

Rosa davurica

バラ科



カラフトイバラ

名前の由来

「カラフトイバラ」は樺太(サハリン)の茨(いばら=トゲのある低木)の意味。「ヤマハマナス」は山にあるハマナス。ハマナスは「ハマナシ(浜梨)」の東北なまりで、果実が甘酸っぱく生食できることから、梨に例えられたものという。漢字名: 樺太茨(山浜梨)

形態的特徴

山地に生える落葉樹、樹高1.5m、幹に刺あり。枝の分岐や葉の付け根には1対の太い刺がある。雌雄同株。葉は羽状複葉で長さ6~12cm、小葉は7~9で長楕円形、長さ2~3cm、鋭鋸歯縁、互生。花は枝先に紅色の花を1~3個つける、花冠は径3~5cm、花弁は5枚、6~7月に開花。雌雄同花。果実は球形で径1~1.5cm、9月頃に赤く熟す。

類似種との見分け方: ハマナスは海岸に育ち、葉は葉脈に沿ってくぼむ(クッキリしている)が、カラフトイバラは海岸に育たなく、葉脈に沿ってくぼむこともない。ハマナスの葉は鈍鋸歯縁。オオタカネバラは、枝先に1個の花(1個の卵形の実)をつけるが、カラフトイバラは、枝先に数個の花(数個の球形の実)をつける。



カラフトイバラの花



カラフトイバラの実。球形で、数個がまとまってつく



カラフトイバラの葉。それぞれこれで1つの葉(羽状複葉) ギザギザは鋭く、表面に光沢がない



カラフトイバラの樹形



カラフトイバラの幹



カラフトイバラの冬芽。付け根に1対の太いトゲ



カラフトイバラの枝先の葉付け根に1対の太いトゲ

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期						■						

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原) 鳥類
ワシ(タカ)

生育環境・分布

乾燥土よりも地下の水湿に事欠かぬくらいの土を好む。しかし、水はけの悪い場所では根ぐされする。

分布：国外分布は、南千島、樺太、朝鮮、中国東北部、東シベリア。国内分布は、北海道、長野県、群馬県。北海道内分布は、道東に多い。



花の咲いたカラフトイバラ

十勝地方生育状況は、全域。野山、丘陵地、林縁部。



実をつけたカラフトイバラ。林縁部に生育することが多い

繁殖生態・寿命

6～7月に開花し、9月頃に果実が熟する。寿命は不明。

他生物との関わり

花にはハチ、ハエ、アブ等多くの虫が吸蜜しに来る。果実は動物に食べられ、種子分散されると思われる。



カラフトイバラの花には多くの昆虫がやってくる

植栽関係

実生による。果実から種子を採りだし、播種後2年で発芽し、苗ができる。1/2程度の強い剪定にも耐える。

興味深い話

- 果実を食用にする。酸っぱい味がする。
- 古い刺は次第に脱落していくという。



カラフトイバラの実

配慮事項

1/2程度の強い剪定にも耐える。

参考文献

「北海道樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990
「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978
「北海道主要樹木図譜」宮部金吾・工藤祐舜 北大図書刊行会 1986
「名前といわれ 木の写真図鑑(1)～(3)」杉村昇 偕成社

1998
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996
「日本の野生植物 木本1」佐竹義輔・原寛・亙理俊治・富成忠夫 編 平凡社 1989

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・森林) 鳥類
ワシ・タカ